

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】令和 1 年 10 月 17 日 (2019.10.17)

【公開番号】特開 2016-30596 (P2016-30596A)
 【公開日】平成 28 年 3 月 7 日 (2016.3.7)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-014
 【出願番号】特願 2015-141888 (P2015-141888)
 【国際特許分類】

B 6 4 G 1/44 (2006.01)

B 6 4 G 1/22 (2006.01)

【F I】

B 6 4 G 1/44 C

B 6 4 G 1/22

【誤訳訂正書】
 【提出日】令和 1 年 9 月 3 日 (2019.9.3)

【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 1 2
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 1 2】

有利には、本方法は、主テーブルばねを巻き戻すステップを更に含んでいてよく、主テーブルばねを巻き戻しは 2 次テーブルばねを曲げることにより得られる。

【誤訳訂正 2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 1 3
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 1 3】

有利には、主テーブルばねは、2 個の面を含んでいてよく、2 次テーブルばねの第 1 の終端は主テーブルばねの第 2 の終端の第 1 の面に固定されていてよく、2 次テーブルばねを曲げることは、2 次テーブルばねに垂直な力をテーブルばねの中央部に加えることにより得られる。

【誤訳訂正 3】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 2 2
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 2 2】

【図 1 a】本発明による主テーブルばねの展開を、軸 Z に垂直な平面における断面図で示す。

【図 1 b】本発明による主テーブルばねの展開を、軸 Z に垂直な平面における断面図で示す。

【図 1 c】本発明による主テーブルばねの展開を、軸 Z に垂直な平面における断面図で示す。

【図 2】本発明による、半展開状態および展開状態にある 2 個のテーブルばねの展開可能構造の第 1 の代替的な形式を示す。

【図 3】本発明による、半展開状態および展開状態にある 2 個のテーブルばねの展開可能構造の第 2 の代替的な形式を示す。

【図４】本発明による、半展開状態および展開状態にある２個のテープばねの展開可能構造の第３の代替的な形式を示す。

【図５】主テープばねを巻き戻すための２次テープばねを曲げることを示す。

【図６】本発明による、半展開状態および展開状態にある２個のテープばねの展開可能構造の別の代替的な形式を示す。

【図７】本発明による収納可能要素の内蔵方法のステップを示す。

【誤訳訂正４】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００３４

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００３４】

図５に、主テープばね１１を巻き戻すための２次テープばね６１を曲げることを示す。主テープばね１１は２個の面１５、１６を含んでいる。２次テープばね６１の第１の終端７１は、主テープばね１１の第２の終端８１の第１の面１６に固定されている。テープばね６１からなる支柱の再巻き上げは、当該テープばねを曲げることにより実現できる。曲げることは、２次テープばねに垂直な力を２次テープばねの中央部に加えることにより行える。このような方法で、２次テープばね６１は曲げられることにより、主テープばね１１および心棒１３と共に三角形構造を形成しなくなる。２個の終端７１、７２の間にある２次テープばね６１の部分は心棒に近づいて巻き戻す傾向がある。このように開始された曲げることにより当該構造を巻き上げることができる。２次テープばね６１の終端７１が主テープばね１１の終端８１に固定されているため、主テープばね１１はもはや完全に展開された位置にはない。従って巻き戻すことができる。

【誤訳訂正５】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００３７

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００３７】

主テープばね１１に力を加える一つの代替方式も図５に示している。図５において、構成要素２５が心棒１３に配置されている。構成要素２５は軸Ｚの回りに回転運動可能である。当該構成要素２５には、構成要素２５を２次テープばね６１に接続する柔軟ケーブルまたはブレード２６が固定されている。構成要素２５を、主テープばねの再巻き上げ方向に対応する方向に回転することで、２次テープばね６１が心棒１３の方へ動かされ、従って曲げることが開始される。構成要素２５は次いで心棒１３と当接することで後者を駆動し、これにより主テープばね１１が巻かれ、２次テープばね６１は主テープばね１１および心棒１３と共に三角形構造を形成しなくなる。既に説明したように、２個の終端７１、７２の間にある２次テープばね６１の当該部分は心棒に近づいて巻き戻す傾向がある。２次テープばね６１の終端７１が主テープばね１１の終端８１に固定されているため、主テープばね１１はもはや完全に展開された位置にはない。従って巻き戻すことができる。